学力と創造性を伸ばす教育のための《二戸授業モデル》

（真の力をつける子どものための授業を目指して）

二戸授業モデル

＜導　入＞
本時（単元）の方向性を明確にする課題設定

※　導入は、課題をとらえるだけではなく、児童生徒の学習に向かう姿勢を作る場でもある。学習内容に対する関心と意欲を喚起する。

＜展　開＞
言語活動を充実させた活動による課題解決

※　学び合いは、単なる発表ではなく課題の解決に向けた思考の場である。教師が児童生徒の考えを引き取って、説明するのではなく、児童生徒自身が自分の考えを相手に分かってもらえるように教科の用語を用いて説明させることで（言語活動の充実）で学習内容の理解・深化を図る。

＜終　末＞
集団の学びを個に返すまとめと評価

※　ここでのまとめとは、学習の主体である児童生徒が単位時間（単元）の学習をふり返って内容を再構築することを指す（定義や教科書にかいてあるまとめとは異なる）。
　前時との違いがはっきり分かるようにまとめたり、本時（単元）の学習で分かったことをふり返ったりし、本時（単元）の学びを焦点化する。よって自分の言葉でまとめることが望ましい。その後、単位時間（単元）内に何らかの方法で評価し（教師も児童生徒も）、次の学習につなげるようにする。

具体的な学習活動・チェックポイント

指導目標に対応した本時（単元）の方向性（何が分かればいいのか、何を解決したらよいのか、どんな学習活動をするのか等）を明確にする。

【チェックポイント】
- 指導目標とかけはなれていないか
- 課題ではなくタイトルになっていないか
- 課題を板書しノートにも書かせているか
- 児童生徒の学習意欲を喚起できたか

自分の考えを基に、課題解決に向けて集団（ペア、グループ学習を含む）で学び合う。条件を変えて、一般化を図る。（他の問題でもできるか）

【チェックポイント】
- 教科の用語を用いた学び合いがなされる工夫があるか（言語活動の充実）
- 学び合いの観点が明確になっているか
- 学び合いの形態は適切か
- 学び合うための素地はできているか

課題とのつながりを明確に簡潔にまとめる。
学んだことを活用する場を保障する。
自己評価により、学習を振り返る。

【チェックポイント】
- 授業が尻切れトンボになっていないか
- まとめが板書されているか
- 個の学習の成立につなげているか